

2020年8月29日（土）、ダイバーシティ推進委員会では、はじめての試みとして準会員会と共催し、「関西のベンチャーで働くCPAに聞く」というテーマで、公認会計士の多様なキャリアを紹介することを目的とした研修会を開催しました。お話を伺った（株）Tech CFO office代表の松本雄大氏は近畿会のベンチャー関連のセミナーでは2回目の講師であり、もうお一方の小林寛之氏は（株）トリドールホールディングス常務取締役CFOを経て、

駐車場シェアリングサービスで有名なakippa（株）の執行役員経営企画室長としてジョインされ、同社の4人目の公認会計士ということで新聞記事にもとりあげられた方です。準会員、会員合わせて20名以上が集まる中、ベンチャーイベントらしく、小林氏はZoomでのオンライン登壇、参加者が質問投稿するとリアルタイムで画面に投影されるシステムを利用したインタラクティブな研修会となりました。

会場参加者の半数程度は監査法人

所属で、これからのキャリアチェンジについて検討されているようでした。私自身、監査法人で監査とベンチャーサポート、アドバイザー事業部を経て昨年ベンチャー企業に転職しているため、お話を興味深くお聞きしました。

講師の松本氏は、ボストンコンサルティングからトーマツグループで監査とベ



ダイバーシティ推進委員会 準会員会共催研修会 「関西のベンチャーで働くCPAに聞く」開催報告

ダイバーシティ推進委員会 副委員長 吉川 和美

ンチャーサポートを経験後、独立起業という選択をされました。キャリアチェンジのきっかけは子育ての環境を考えてとのことで、地元に戻られ、現在は社外役員をされつつベンチャーで働く公認会計士を増やそうと活動されています。ご自身が仕事としてやりたいこととライフスタイルを両立されているご様子でした。

一方で小林氏は同じくトーマツからPEファンド、売上高1,000億円をこえる上場企業トリドールを経て、もう一度ベンチャー企業へと転じられました。常務取締役CFOとして

そのまま活躍される選択肢もあったとのことですが、長く会社の成長に携わりたいと、新たなチャレンジをされています。

1時間半ひっきりなしに役立つお話をたくさんしていただいたのですが、中でも特に印象的だったお話を2つレポートさせていただきます。

1つ目は、お二方とも監査業務からコンサルティング業務を経てベンチャーにかかわっておられる点です。ベンチャーへのチャレンジはエキサイティングではありますが、監

査業務からいきなり移るのではなく、ファンドやコンサルティング会社で経験を積んだり、さらに時間外でベンチャー企業と接したりすることが役立つとのアドバイスは、今後ベンチャー企業にかかわろうとする公認会計士にとって有用なアドバイスであると感じました。こうした経験値をあげることにより、ベンチャー企業とかかわることの適性を判断できますし、これはというベンチャー経営者に出会える可能性も高まると思いました。

2つ目は、公認会計士が事業会社やベンチャーでどのようにバリューを出せるかという点です。組織内会計士として、1) 経理や管理部長としてバックオフィスで活躍するパターン、2) 監査役や内部監査人としてガバナンスを支えるパターンは想像しやすいですが、3) 会計の知識を持って事業運営側に回るという選択肢もあり、3つ目は公認会計士であることは必須ではないが、会計のバックボーンがあるからこそ経営のダイナミズムを感じることができる魅力的な業務だというお話でした。

監査法人出身の公認会計士が事業運営側に入っていく場合、管理会計を用いてコストダウンの観点からバリューを出すという方法は想像が付きやすいですが、トップラインを作っ

ていくには一般的に経営経験が不足していることが多いです。その場合、戦略コンサルティングやPEファンド等のキャリアを経由することができれば補強が可能ですが、それが難しい場合でも、CFOとして正しい意思決定ができればよいし、できる人を連れてこればよい、誰しもいきなりはできないのだから、見よう、見まねでバッテリーボックスに立ってバットを振り続ける中で成長することができるのだというお話には大変共感しました。

今回の研修により、ベンチャーの支援や、ベンチャーで経営側に回るという業務の魅力が、これからのキャリアを考える方に伝わったのであれば大変うれしく思います。

ダイバーシティ推進委員会では、今後も会員・準会員の皆様を対象とした研修会を企画しております。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

